



## 新年のご挨拶

安芸農業協同組合

代表理事組合長 永山 洋介

新年あけましておめでとうございます。

平素は組合の事業につきまして、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年農業を取り巻く情勢は、東日本大震災の津波と福島第1原発の放射能漏れにより、多くの農家が多大な被害に遭われました。

当組合も募金活動、支援物資の提供、農地復興のための人員派遣等を行ってきましたが、いまだ復興には遠く及ばない状況を考えますと、今後とも引き続き、「協同」の理念に基づき支援していきたいと考えております。

次に、TPP（環太平洋経済連携協定）問題ですが、昨年11月に多くの反対がありながら、政府は参加に向けた検討をすると表明しました。一昨年3月に同じ民主党政権が閣議決定した「食料・農業・農村基本計画」には平成32年度に食料自給率50%を目指すとした国の基本方針に逆行するものです。当組合では、JAグループの一員として「TPP断固阻止」を掲げ、一体となって活動していきます。

昨年の管内各地で開催されました農産物品評会では、低迷しておりました出品点数も回復しましたし、農業振興としまして今後とも支援してまいりたいと考えております。

米の情勢ですが、管内作況指数は100と平年並みで当JA独自に行なっております買い入れは7,933袋（平成22年度7,686袋）と増加しました。1等米比率は24%と近來にない低い結果となりました。本年も引き続き米の独自買い入れを実施していきたいと考えておりますので、ご協力のほどお願いいたします。

昨年には営農指導センターを営農相談がしやすい熊野購買センターと同一の所に移転させました。

今後とも農家・組合員様のご期待に添える「JA安芸」を目指し、役職員一丸となって邁進する所存でございますので、ご支援の程よろしくようお願い申し上げます。

## 農業祭

熊野町農業祭が11月27日に盛大に行われ、農林産物品評会では、総出品数が584点あり12月4日の坂町農産物品評会では、出品数が336点でした。平成22年に比べ大変多くの出品がありました。品評会で気付いたのが、大根の肌に小さな傷が多く見うけられ、これは

あぶらな科に被害を与えるキスジノミハムシやハムシ類による仕業で、大根の産地では、防除重点害虫になっております。あぶらな科の植物で貝割れ葉が開いたらすぐ葉に小さな穴ができます。これは成虫がかじった跡で地際に産卵して幼虫が根に傷を付けます。早目の薬剤散布が防虫被覆材による防除を行いましょう。皆様丹精込めて生産された良いものが多く出品された品評会でした。



## 米の集荷状況

23年の稲作は植付け後の低温による初期生育の遅れや、台風による早生品種の倒伏などがあり、いろいろとご苦労があったと思います。収量は(作況指数県南部100)平年並みでしたがJA安芸では昨年より3%程度多く集荷することができました。ありがとうございました。

しかし、未熟粒・乳白粒の米が多く、残念ながら1等米比率は低い水準となりました。

今年度も栽培履歴回収にご協力いただきまして大変ありがとうございました。回収させていただきました履歴を分析検討し、今後の営農指導に役立てたいと思っております。来年度も引き続きよろしく願い申し上げます。

平成23年12月19日現在 袋/30kg

名 柄	1 等	2 等	3 等	規格外	合 計
コシヒカリ	311	701	110	7	1,129
ヒノヒカリ	952	3,254	606	105	4,917
JA米ヒノヒカリ	488	718	139		1,345
あきろまん	76	195	50		321
その他	108	95	18		221
合 計	1,935	4,963	923	112	7,933

## 土壌診断の報告

11月に土壌診断の引き受けを行い、12月に分析結果が出ましたので、「土壌診断処方せん」を各生産者に通知、指導をいたしました。園芸土壌5点でPH、EC、リン酸、石灰、苦土、加里、腐植等を化学分析いたしました。園芸土壌の場合は、養分の残量を確認することと、石灰、苦土、加里のバランスを調整する目的で「土壌診断処方せん」が作成されています。不足傾向の分析結果は、施用すれば解決するので良いのですが、過剰傾向の場合、過剰障害が心配されるので土壌診断により確認すると良いと思います。今回は、石灰、リン酸の過剰傾向のある土壌がありました。

水稻土壌はPH、リン酸、加里、けい酸、酸化鉄、腐植等を31点化学分析してそれぞれの圃場に対して「土壌診断処方せん」を作成いたしました。今回の土壌分析結果は次のようでした。リン酸の分析値は、適正な圃場が14点、過剰傾向な圃場が16点。加里の分析値は適正な圃場が13点、過剰傾向な圃場が0点。腐植の分析値は適正な圃場は16点、不足傾向が15点。ケイ酸の分析値は、適正な圃場は4点、不足傾向が27点。酸化鉄の分析値は不足傾向な圃場が31点。このことからリン酸、加里については適正、過剰傾向な圃場は、元肥で節約できます。土壌の物理性や肥持ちを良くする腐植については半分の圃場が不足傾向なので堆肥を入れて改善します。また、イモチ病にかかりにくくしたり、倒伏しにくくなるケイ酸が不足傾向にある圃場が半分以上ありました。ゴマ葉枯れ病や下葉の枯れ上がりや根の保護をする酸化鉄が全圃場で不足傾向でした。ケイテツエース、ミネラルA、ケイカル等で補ってください。米の品質を高めたり増収にも効果があります。

## 熊野そだち丹波種黒大豆

熊野町黒大豆生産組合では12月6～7日に丹波種黒大豆の集荷を行いました。(近年丹波種黒大豆の枝豆が人気があり枝豆の消費が増えています。)平成22年は、不作で237kgの集荷販売でしたが今年は、370kgの集荷販売を行い、販売金額は717,000円となりました。平成23年度は、9月上旬に台風12号で株がゆすられた影響で減収になった所がありました。また、病虫害では、ハスモンヨトウの発生が少なく葉の食害は少なくて済みましたが、集荷された黒大豆を見ると奇形な黒大豆が沢山あり、カメムシ、ダイズサヤムシの被害とみられるので莢の肥大期の防除を行えば製品率が上がったと思います。

# 1月営農メモ

## お詫びと訂正

農協だよりの平成23年10月Vol62号の営農メモで「販売終了農薬の対応について」の記事の中で販売終了品目にダイアジノン粒剤を記載しましたが、間違いでしたので訂正してお詫び申し上げます。

## 果樹

### 果樹の剪定について

剪定の目的

- ① 隔年結果になりやすいので、安定して結果させる為
- ② 作業をやりやすくして、品質を高め、病害虫の発生を少なくする
- ③ 樹の樹命をのばす

### 1. 花芽の着き方と果実の成り方

図1のように、前年の結果枝に直接結実するグループ(モモ、スモモ、ウメ、アンズ、サクランボ、ブルーベリー、ポポー)と、前年の結果母枝から発生する新梢に結実するグループ(カキ、クリ、クルミ、ブドウ、キウイ、カンキツ、イチジク、ビワ)があります。花芽の着いているところを剪定するとまったく結実しくなくなります。

図1 花芽の着き方と果実の成り方



### 2. 切り返しと間引き

図2のように、枝を短く切り詰めることを切り替えしと言い、枝の本数を減らすことを間引きと言います。間引きは、すべての果樹に適用できる無難な方法ですが、間引きだけでは、強いしっかりした枝が出なくなってしまうので、適宜切り返しを併用する必要があります。

図2 間引きと切り返し



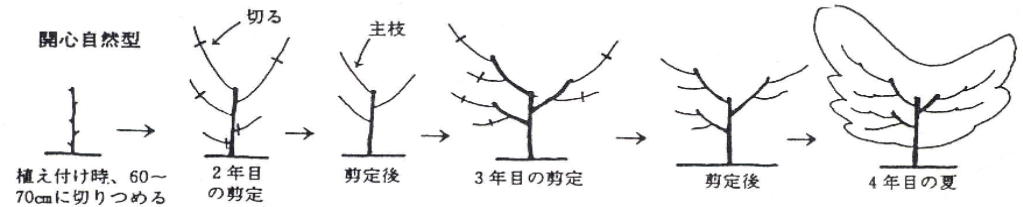
### 3. 剪定の程度

若木では弱く、老木では強く切るのが原則です。強く枝を切るというのは、剪定する枝の量を多くするという意味です。老木では逆に少し強めに枝を切らないとよい結果枝や結果母枝が発生しません。

### 4. 目標とする樹形

図3のように、心を開いた樹形で、ほとんどの果樹に適用できます。

図3 開心自然形



### 5. 現在放任樹となっている樹の剪定

剪定の目的を考えて次に示す枝を3年ぐらしかけて徐々に改善します。

車枝……車軸のように、一ヶ所から何本も太い枝が出ている状態を言います。なるべく1~2本に整理します。

交差枝、重なり枝……お互いに交差したり、重なり合っている枝で、1方を整理します。

内向枝……内側に向かって伸びている枝を整理します。

直立枝……直立している枝を整理します。

